

教育臨床心理実践センターだより

教育臨床心理実践センター発行
2015年3月発行 第12号

教育臨床心理実践センター公開講演会

「教育相談機関の実際」

京都市こども相談センター・パトナの取組み」報告

2月6日(火)15時～17時に、附属教育実践センター機
構棟1階・教育臨床心理実践センター教育臨床実習室に
おいて、長谷川智広先生(京都市こども相談センター・
パトナ)をお迎えして、教育相談機関の役割や実践につ
いての理解を深めました。

まず子どもをめぐる多様な相談チャンネル(医療、福
祉、警察、民間団体など)について説明があった後、教
育相談における多様なチャンネル(教育相談機関、スク
ールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー)を紹
介して頂きました。また教育相談の強みと弱みとして、
学校との連携が取りやすいなどの強みがある一方、全
ての課題に単独で対応できるわけではないなどの弱みが
あり、他の相談チャンネルとの連携が必要であると説明
されました。

次にパトナは「生徒指導課」「カウンセリングセンター」「ふれあいの杜(適応指導教室)」
の三つから構成されていると説明して下さい、それぞれ生徒指導に関する学校への助言、
児童生徒・保護者へのカウンセリングや教員研修、不登校児童生徒への学びと活動の場を
提供しているということでした。またカウンセリングの相談内容は時代とともに変化して
おり、発達障害の相談や家庭に関わる相談の割合が増え、心理的な要因が大きい相談が減
少していると説明されました。そういった中で、カウンセラーとして心理だけでなく、発
達障害などの生物学的要因や家庭などの周りの環境を含めて、広い視点を持つ必要がある
と教えて下さいました。

そしてパトナの教育相談の課題として、料金が無料であることのメリットとデメリット、
個人情報取り扱いや守秘をどのように考えるかなどがあると話されました。特に個人情
報の適切な取り扱いということは、法的には児童福祉法などを熟慮する必要があり、虐待
など法的に伝えるべき時には守秘を越えて伝えることが必要であると説明されました。

さらに現在、国が推し進めている政策でもある、スクールソーシャルワーカーについて、
文科省の活用事業実施要項などを引用し、架空の事例を
使いながら詳しく教えて下さいました。

最後に現在の教育相談に求められることとして、社会
状況に応じて大きく変化する新たな状況や、教育課題に
対応できる柔軟性を常に持つことが大切であると強調
されました。

長谷川先生は会場からの多くの質問にも丁寧に答
えて下さり、講演の内容をより深めることができ、大変充
実した公開講演会となりました。



平成27年4月に開校する「京都府立清明高等学校」への支援

京都府立清明高等学校とは、本年4月、京都府立高校として29年ぶりに新設される多部制単位制の定時制高校です。不登校やいじめなどを含む、生徒指導や教育相談に関わる様々な課題を抱えた多様な生徒が数多く入学することが想定されている高校です。また、本年度の志願倍率は3倍近くにのぼり、多くの生徒やその保護者から開校が強く待ち望まれている学校でもあります。

京都府教育委員会の依頼を受け、本センターではセンター関連教員による直接支援、研究生（高校教員）の受け入れなど、清明高校に対して積極的な支援を行う予定です。

これらの支援のひとつとして、カウンセリングや教育相談を学んでいる大学院生（主として教育臨床心理学コース）を清明高校に派遣します。彼らは、センター教員、清明高校教員及びスクールカウンセラーの指導のもと、「自立支援プログラム」や「集団活動」での補助、生徒への「個別支援」等の活動を行っていく予定です。

附属学校スクールカウンセラーから — 桃山中学校・附属高校 —

相談者それぞれの気持ちに寄り添いながら、子どもの置かれている現状を理解できるようお話を聞かせていただいています。その中で、本人を支え得る様々な関係とその力を使って回復に向かうよう考えます。スクールカウンセラーが附属校園に導入されたこの4年間も、必要な場合は保護者や教員、学内外の機関と力を合わせ、そして何よりも本人に潜在する力を引き出し、つながりあいながら、スクールカウンセリングを実施してきました。保護者と教員には、不安による身体症状や心の不調をどう理解し、どのようにそこから回復させていくのかという道筋を共に考えてきました。子どもが本来の力を発揮できるようにどう応援していくのがよいか、関係に着目しその時できることを確認し実行します。守られ自己を表現できる場を得て、子どもたちは徐々に関係をつなぎなおし、自分らしい歩みを始めてこられます。「相手の気持ちを聞く」「人とつながる」ということがいかに大切かを改めて感じています。（岩瀬佳代子）

心理教育相談室について

個人・家族・学校などの悩みや困った問題について心理的援助を行っています。まずは電話にて、お気軽にご連絡ください。

075-644-8824（月曜～金曜、午前10時～午後4時）



教育臨床心理実践センター・スタッフ

専任教員（センター長） 教授 本間友巳 カウンセラー 岩井秀世（月曜）
兼任教員 教授 森孝宏 教授 内田利広 准教授 小松貴弘 講師 西村佐彩子
相談補佐員 岩瀬佳代子（月曜） 荒井久美子（火・金曜） 金子真理子（水曜） 西山智栄子（木曜）